

けんかの花がさかないように

八南小・2 ごとうりおん

「うちみたいじゃん。」

おかあさんが、本やさんで言いました。お話を少し読んでみたら、けんかの場めんが本当にうちのきょうだいげんかみたいだったので、この本を読んでみることにしました。

この「けんかのたね」は、四人のきょうだいと犬とねこ、ねずみがけんかをして、さいごはなかなかおりをするお話です。

わたしが一ばん心にのこった場めんは、けんかで言いわけばっかりしていた子どもたちが、どうぶつたちのおかげでさいごには本当のことを言ってなかなかおりするところです。

もし、わたしがこのきょうだいのだれかだったら、みんなと同じように、さいしょは本当のことが言えなくて、だれかのせいにしただろうなと思います。

わたしには、五さいのいもうとと二さいのおとうとがいます。夏休みになつて、なぜかまい日いもうととけんかになります。はじめは、口げんかだけど、だんだんいらしてきて、がまんができないといもうとをたたいてしまいます。そうすると、いもうともやりかえしてきて、大げんかになります。

おかあさんに何があつたか聞かれた時、わたしが先にたたいてことを言わないことがあります。だって、それを言ったらわたしだけおこられて、いもうとはおこられないかもしれません。このお話のみんなもそう思ったんだろうな。だから、気もちがわかります。

わたしはこの本を読んで、やっぱりいもうととおとうともなかよしでいたいなと思いました。「けんかのたね」は小さくても、おこっているまっ赤なたねだと思います。そのたねに、わる口とかじ分かつ手のお水をあげたら、いつかすぐこわいおこったかおの花

がさくと思います。だからわたしはけんかになりそうな時は、早めに「やめよう」と言っつて、じ分がわるい時には、「ごめんね」と言おうと思います。こわいけんかの花がわたしたちきょうだいの中にさかないように。